

## (2) 青森県立青森西高等学校

「青森のリベンジー—住みたい町を目指して—」



令和元年度高校生模擬議会

青森県立青森西高等学校

令和2年2月6日(木)

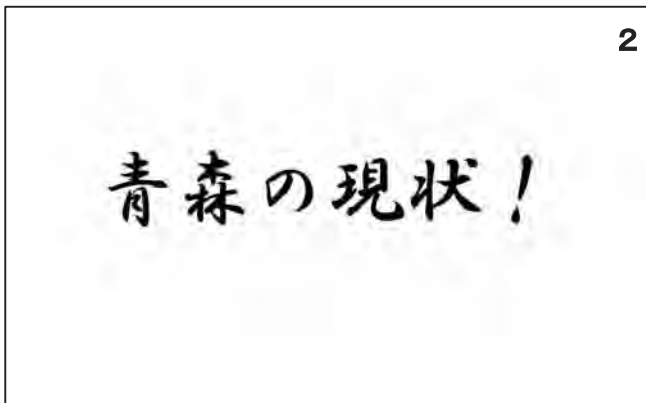


これから、青森西高校の発表を始めます。よろしくお願いします。

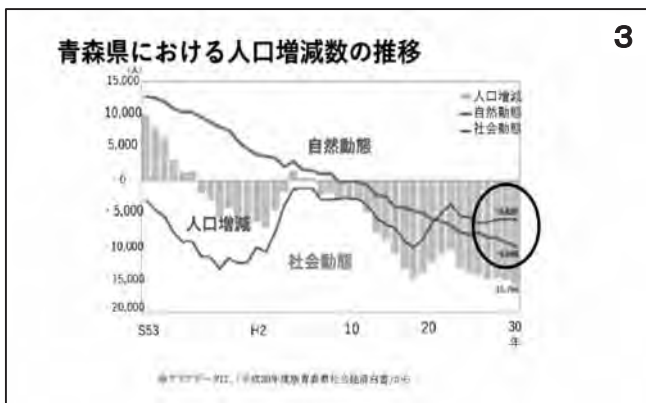
私たちが青森県の課題探究を始めたころ、「青森県の魅力は？」という問いに対して行ったグループワークでは、ねぶた、りんごなどの代表的なことしか県民であるのに出ませんでした。

更にその後の「青森県の不便な点は？」の問いに対しては、魅力を上回る数が挙げられました。

この高校生の現実を目の当たりにした私たちは、その後のグループワークを通し、様々な問題を挙げ、その中で最も重要であると考えた人口問題について、「青森県のリベンジ」と題し、「住みたい街を目指して」というテーマで探究しました。(1)

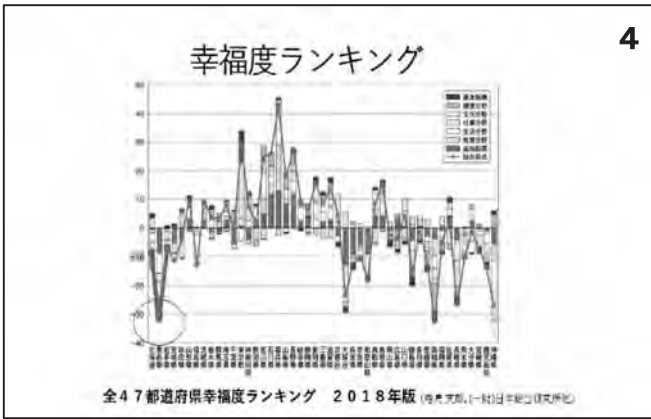


まず、青森県の現状について調べました。2つのグラフを御覧ください。(2)



1つ目に青森県の人口の推移について見ていきたいと思います。

平成30年度版青森県社会経済白書より、自然動態と社会動態は、年々低くなっていて、グラフを見る限り、社会動態と共に人口が減少していることが分かります。(3)



2つ目に幸福度ランキングについてです。

2018年に行われた全国47都道府県幸福度ランキング、青森県は46位となっています。この幸福度ランキングは、まず、同じ指標のそれぞれの値を比較可能な数値に置き換え、ある指標のある県の数値が、平均値からどれだけ離れているか。標準偏差の何倍であるかを求め、それをランキングにしたものです。

この幸福度ランキングでも、青森県は下位ばかりでした。(4)

5

## 青森の現状

①人口は減っている

②幸福度ランキング低

私たちは、この2つの観点に着目して地域活性化を考えました。(5)

6

## Question

①そもそも人口は必要?  
→ 県外流出の原因は?

②幸福度ランキング  
高順位の県は?

そこで、人口の必要性、県外流出の原因、幸福度ランキング高順位の県の特徴の3つの疑問が浮かびました。

(6)

7

## ①人口の必要性 Answer

経済成長

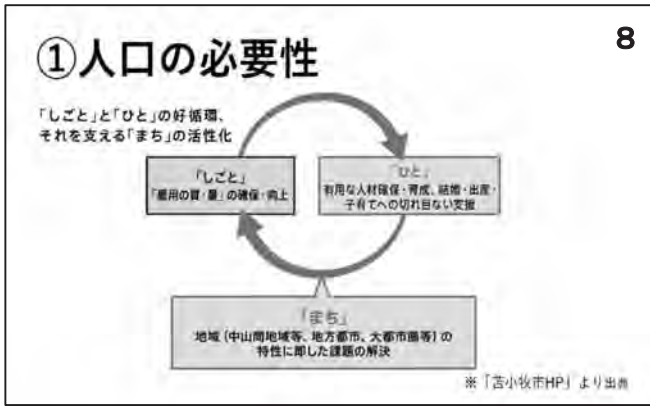
産業の存続

地域の活力

※「雲仙市HP」より出典

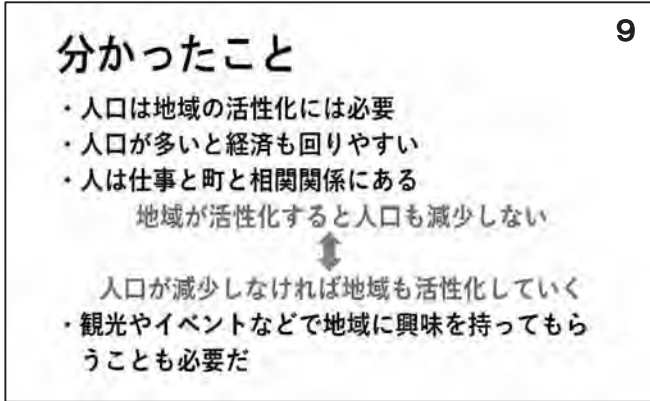
まず、人口の必要性の理由として、雲仙市のホームページによると、人口が減少すると経済成長の面では労働力の減少。産業の面では、消費者の減少や市場の縮小が挙げられます。

地域では、伝統的な行事やイベントの減少につながります。(7)



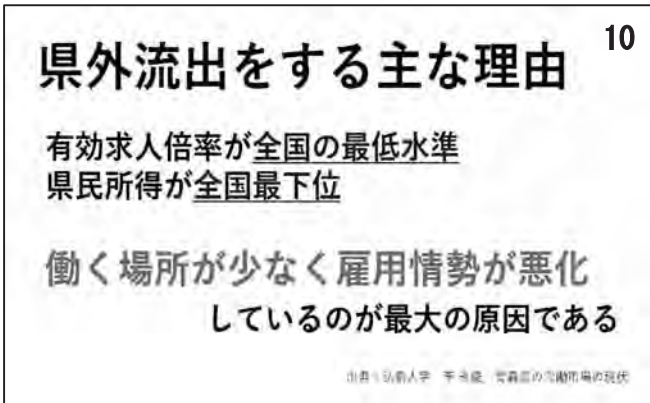
また、吉小牧市のホームページでも、人口は仕事と街と関連性があることが分かります。

この3つの充実、向上により好循環となり、結果として地域活性化、住みたい街となると思います。（8）



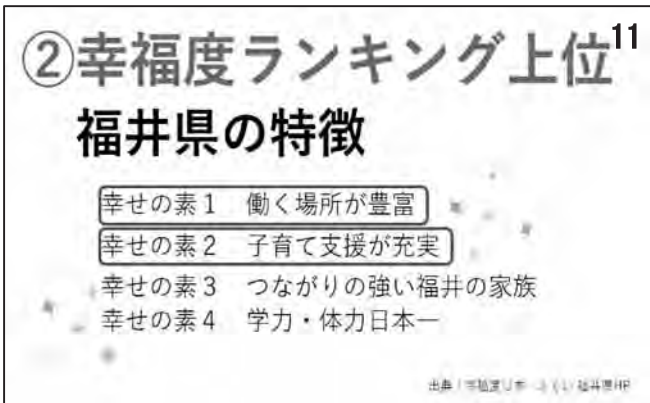
この2つのデータをもとに、人口は、地域の活性化にはやはり必要であり、人口が多いことで経済も回りやすく、人と仕事、人と街というのは、相関関係にあることが分かりました。

観光やイベントなどで、地域に興味を持ってもらうことも必要となります。（9）



次に県外流出をする主な理由についてです。

青森県は、有効求人倍率が全国の最低水準であり、県民所得も全国最下位となっており、働く場所が少なく、雇用情勢が悪化しているのが最大の原因であると言われています。（10）



次は幸福度ランキング上位の福井県の特徴についてです。

福井県は、働く場所が豊富で子育て支援が充実していて、毎月第3日曜日に家族と触れ合い時間を増やす日が設けられていて、繋がりの強い家族であり、学力、体力の面でも日本一となっています。

この中でも1つ目の働く場所の確保と、2つ目の子育て支援の充実は、青森県でも実行できると考えます。

（11）

**12**

## 分かったこと

- ・職場の充実
- ・子育て支援の充実
- ・福祉面の充実

➡ **県民の幸福要素**

県民の幸福要素高いということは  
皆が住みたい町になるのでは？

福井県の特徴から、幸福度は、職場、子育て支援、福祉面ともに充実していることと関係があります。県民の幸福度の高さが高いと住みたい街になると思います。(12)

**13**

## ①②からの考察

職場の充実・生活のしやすさ

- 皆が住みたい町
- 人口も減少しない
- 地域の活力アップ

人口の必要性と福井県の特徴から、職場の充実と生活のしやすさを改善することによって、皆が住みたいと言えらる街になるのではないかと考えられます。住みたい街は、県外流出もせず、住みたいと思う人も増え、人口が減少しないので地域の活力もアップします。(13)

**14**

## ①②からの考察

皆が住みたい町になるために

- イメージアップも大切
- ・自分の町の良さを知る
- ・県外の人にも良さを知る

そして、皆が住みたい街になるためには、イメージアップも大切になってきます。青森県民が、自分の街の良さを知り、県外の人にも青森県の良さを知らせることが必要です。(14)

**15**

目標	具体的な方策
人口減少の抑制 住みたい町	(1)職場の充実 (2)生活のしやすさ (住む場所の確保や 社会保障等) (3)県内外での イメージアップ (人の呼び込み)

以上のことから、私たちは、人口減少の抑制、住みたい街を目標としました。具体的な策として、職場の充実、生活のしやすさの向上、県内外でのイメージアップです。(15)



16

# (1)職場の充実

ここから、具体的な策についてです。

1つ目の職場の充実について説明します。(16)

17

## (1)職場の充実

- ・災害の猛威に負けない47  
**都道府県ランキング13位**  
(Rakuten infoseek Newsより)
- ・地震「耐久県」  
**都道府県ランキング5位**  
(日刊 住まい Sumai Powered by[住まいの設計]より)

↓

大手企業の倉庫・工場などを誘致する

このように、青森県は、災害による被害が少ないことが挙げられます。このメリットをアピールし、大手企業の倉庫、工場などの誘致を進められると考えられます。(17)

18

## (1)職場の充実

### 地方で起業するメリット


- ①固定費が抑えられる
- ②メディアに注目されやすい
- ③事業に関係する人と  
つながりやすい

株式会社FirstStec 取締役マツヤマンスペース 運営責任者 税理士 藤島 幸輔

地方で起業するメリットとして、オフィス家賃、人件費などの経費が抑えられること。地方テレビ局や新聞、雑誌などによる地域の情報を取り上げる枠が都会より多いため、メディアに掲載される機会も多くなること。起業化に向けたイベントやセミナーで、地域のキーマンとなる方と知り合える機会が多いことが挙げられます。(18)

19

メリットを前面に押し出し、  
ベンチャー企業や起業家に  
青森を売り込んでいく



これらのメリットを全面に押し出し、ベンチャー企業や起業家に青森を売り込んでいけば良いと考えています。(19)

(1)職場の充実 20

## 働きやすい環境の整備



環境の整備により、働きやすい職場になる

健康経営と生産改革の積極的アプローチへんすけアワード（より）

職場の充実には、働く場所だけでなく、働きやすい環境の整備も必要です。（20）

(1)職場の充実 21

## 働きやすい職場の特徴

- ・会社の雰囲気が良い
- ・評価・人材育成制度が整っている
- ・福利厚生が充実している

健康経営と生産改革の積極的アプローチへんすけアワード（より）

まず、働きやすい場所の特徴として、これらが挙げられます。特に上2つの会社の雰囲気を良くすること。評価、人材育成制度を整えることは人の意識次第で実行できることだと思います。

では、どうすれば、これらをクリアできるのでしょうか。

そのためには、安心・安全、ポジティブな場を作ることが良いと思います。否定的な言葉を使わない、否定をしない、挨拶をしっかりとする、言動一致、一貫性のある行動を心がけることなどです。（21）

22

## (2)生活のしやすさ

（住む場所の確保や社会保障等）

2つ目の生活のしやすさについて説明します。（22）

(2)生活のしやすさ 23

西目屋村  
「子育て応援日本一」を目指す

↓

『スクスクタウン』

現在の青森県の西目屋村には、子育て応援日本一を目指している「スクスクタウン」があります。（23）

**24**

**スクスクタウンとは**  
西目屋村スクスクタウンHPより

ある条件を満たすと土地代が無料で住める  
 集合住宅地のこと  
 条件…西目屋村に永住をすること

「スクスクタウン」とは、ある条件を満たすと、土地代が無料で住める集合住宅地のことです。条件は西目屋村に永住をすることです。たったそれだけの条件で得られることが沢山あります。(24)

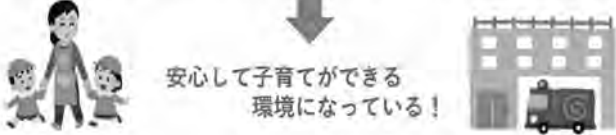
**25**

**条件を満たすと得られること**

融雪口の完備で雪片付けの心配なし  
 妊婦・乳幼児の健診無料  
 高校三年生に値する歳(18歳)までの医療費無料  
 保育園、小学校、温泉、消防署、公民館がすべて徒歩3分圏内にある

↓

安心して子育てができる  
 環境になっている!



例えば、融雪溝の完備で雪片付けの心配がないことなどです。このように安心して子育てができる環境になっています。(25)

**26**

**高齢者のための整った環境は少ない**

↓

**高齢者向けのサービスの提供が必要**

しかし、高齢者のための整った設備はあまりありません。そのためには、高齢者向けのサービスの提供が必要となってきます。(26)

**27**

**(2)生活のしやすさ**

**県外の動き**

全国的に有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅が増加傾向

東京都は足立区を中心に多くの地区にシルバータウン

シルバータウンでは身体拘束ゼロで重症化の予防、生活機能の維持・向上などを図っている

次に高齢者のための県外の動きについてです。全国的に有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅が増加傾向にある。中でも、東京都は足立区を中心に多くの地区にシルバータウンがあります。(27)



## (2)生活のしやすさ

28

### 高齢者のためのサービス

- ・福祉、介護などの生活支援サービスの提供
- ・住宅のバリアフリー化など高齢者に配慮した住宅の確保
- ・居宅サービスの充実
- ・セーフティーネット、住まいの情報提供、相談窓口の設置

など地域で支え合う体制の構築が必要

出典：青森県高齢者居住安定確保計画

また、青森県では、高齢者のためのサービスとして、住まいの情報提供や相談窓口の設置などがあります。

このような地域で支え合う体制の構築が必要だと考えます。(28)

## (3)県内外での イメージアップ (人の呼び込み)

29

3つ目の県内外でのイメージアップについて説明します。(29)

## 🍏 観光関係のPR内容 30

- 自然 ・温泉 ・白神山地 ・八甲田山 ・十和田湖  
歴史 ・三内丸山遺跡 ・亀ヶ岡石器時代遺跡  
・十三湊遺跡  
祭事 ・青森ねぶた祭 ・弘前ねぶたまつり ・八戸三社大祭  
著名人 ・太宰治 ・榎方志功 ・寺山修司  
果物や野菜 ・りんご ・長いも ・にんにく  
魚介類 ・ごぼう ・ホタテ ・イカ・大間マグロ

他にも沢山！

観光資源は豊富であるといえる！

観光関係のPR内容についてです。  
このように、青森県には自然や歴史、特産物など沢山の資源があります。(30)

## イメージアップへ向けて

31

- ・青森県民も自分の県の良さを知る
- ・県外の人へもPR

県内外でのイメージアップや人の呼び込みのために、まず青森県民が、まだ青森県の良さを分かっていないところがあると思い、青森県の良さを知る取組が必要だと思いました。

また、人の呼び込みというのが、他県の人を青森県へ呼び込むということなので、県外の方へのPRもするべきだと考えました。(31)

## PR方法①

32

### 愛がつまった新あおもり検定

- ・青森の魅力を発見できる
- ・青森の知識アップ

その方法として、1つ目は、「愛がつまった新あおもり検定」をもっと広めることです。自分がどれくらい青森のことについて知らないのか気づくことができる上に、検定の勉強ついでに知らなかった青森の魅力を知ることができます。(32)

33

- ・検定を自分から受ける人は少ないと思う  
→参加するメリットを提供する  
例：割引・プレゼント・クーポン  
など

昨年度、高校生が復活させたこの検定ですが、受験者数が伸び悩んでいます。

そこで、参加する特典を提供することにより、受験者が増えると考えました。

特典の例として、のっけ井や煮干しラーメンなど、青森の美味しいもののクーポンを提供すればいいと思います。受験者が増えると青森のことについて深く知り、青森愛の強い人が増えることでしょう。(33)

## PR方法②

34

### RAB祭りのような イベントを多数開催

幅広い年齢層の人の入場が見込める

2つ目は、RAB祭りのようなイベントを多数開催することです。このようなイベントなら、幅広い年齢層の人たちに来てもらえる上に一度に沢山の人が青森の魅力をPRできると考えました。

現在、RAB祭りでは、青森のコーナーがありますが、まだ目立った成果は見られません。そこで、イベントを開催する頻度を増やすことで、目に留ませるのはどうでしょうか。(34)

35

- ・多数のイベントで青森の特産物のコーナーを設ける
- ・都会の食べ物を青森県らしくアレンジしたイベントを開催する

また、RAB祭りに沢山の人が訪れる理由が、青森にはないようなものが、ないような食べ物があるということであると考え、青森の特産物を都会のものらしくアレンジするという方法を考えました。(35)

**36**

**PR方法③**

**SNSを利用**

- ・ InstagramやTwitter等SNSを使って発信していく
- ・ #aomoriを調べてもらう
- ・ YouTubeでの動画配信で魅力発信




3つ目にSNSを利用することで

す。  
 具体例として、InstagramやTwitterなどを使い、青森の情報・魅力を発信し、その発信された魅力を知ってもらうために、SNSで「#あおもり」で検索してもらいます。それに加えて、YouTubeでの動画配信で魅力を発信することも有効であると考えます。(36)

**37**

Instagramを利用し、有名になった例

1. 「千本鳥居」(京都)  
 人気になったのは“景観”のおかげ！  
 →外国人観光客が京都で行きたい場所 No.1
2. 岐阜県(下呂)  
 写真のコンテストを実施  
 →3か月で2千件以上の投稿  
 →観光客が増加

北海道大学准教授 阪本 元雄

SNSを利用する根拠として、実際にInstagramを利用して有名になった例があるためです。京都府の千本鳥居や、岐阜県で実施された写真コンテストなどで実際に観光客が増加しました。(37)

**38**

#aomori を調べてもらうために、  
 #ハッシュタグ)を活用したキャンペーンを行う

例1) 「#夏の青森」「#〇〇な青森」など  
 お題に沿った写真を投稿してもらい、抽選やグランプリで数名に商品(食品や日用品の他に、青森の旅館の宿泊券や青森で使える割引券など)をプレゼントする

青森県もこのようにSNSを利用して有名になれないかと考えました。「#あおもり」で調べてもらうために、#を活用したキャンペーンを行うことで青森の魅力について触れることができると思います。(38)

**39**

例2) 青森に関する写真や動画、絵を  
 ハッシュタグをつけて投稿してもらう  
 (以下例1同様)

例3) 「#青森あるある」  
 「#私の好きな青森の方言」  
 などを募集し、ツイートしてもらう  
 (以下例1同様)

例として、青森に関する様々な話題に沿った写真を#を付けて投稿してもらい、抽選やグランプリなどで数名に商品をプレゼントすることが挙げられます。

また、青森県の旅館の宿泊券や青森県で使える割引券を賞品として提供することで、観光客へ青森に来る機会を与えることができます。お題を提示することで、青森の多くの魅力を発信できる上に参加者も飽きることなく楽しめると考えました。

他にも青森に関する画像や動画、ツイートなどに#を付けて投稿してもらうなど、SNSでのPRの仕方は沢山あります。(39)

**40**

## SNSの投稿者を増やす方法

- ・ 県内の小・中・高生に  
キャンペーンをPRするポスターの作製  
を授業などでお願いしてもらう
- ・ 街中にポスターを掲示してもらう

SNSによる参加者を増やす方法として、キャンペーンをPRするポスター作成を県内の学校授業でお願いしてもらい、街中にポスターを掲示してもらうという方法があると思います。街中にポスターがあれば、沢山の人の目に入って情報が広まり、参加者の増加、県内外への魅力の発信に繋がると考えました。(40)

**41**

## まとめ

(1)職場の充実

(2)生活のしやすさ

(3)県内外のイメージアップ

これらの方策を実現することによって

最後にまとめになります。以上の具体案を実施することで、職場の充実、生活のしやすさの向上、県内外のイメージアップを図れると思います。(41)

**42**

## 県外流出者の減少

### 移住者の増加

↓

## 人口減少の抑制

そして、この3つが揃っていれば、青森県の魅力に火がつき、充実した生活が送れるので、県外流出者の減少及び移住者の増加を見込め、人口の抑制ができるでしょう。(42)

**43**

# 住みたい町



こうなれば、もう若者につまらないなんて言わせません。私たちのこれからを支えてくれる青森県は、若者から高齢者の人が笑顔で暮らせる、未来を任せられる、住みたい街を実現することができると思います。(43)

44

ご清聴ありがとうございました。

これで青森西高校の発表を終わります。  
御清聴、ありがとうございました。  
(44)



## 【質 疑】

おおさき みつあき  
●大崎 光明議員（自由民主党）

### （大崎議員）

私は、太平洋側の八戸市選出の大崎と申します。

議員になりたての1年生議員でございます。皆さんと同じ1年生です。よろしくお願いいたします。

まずは、本当に様々なデータに基づいて情報から分析をして、皆様の考えをまとめられて、本当にリアルに我々青森県が、また我々議員一人ひとりが、青森県が直面する課題、そのものであったと思いますし、結論から申し上げますと、今日、皆さんが発表していただいたことそのものが全て実行できれば、本当にこの住みたい街になる、間違いないなというふうに確信をしたところでございますし、その努力を我々もしなければいけないなというふうに思ったところでございます。

その中で、私からは2点質問させていただきたいと思うんですけども、まず1点目は、住みたい街を目指していくためにということで、幸福度ランキングのお話がございました。2月にまた議会が開会、私共もされるんですけども、私も去年の年末に様々なランキングのデータを偶然ですけども、見させていただいておりました。それで、今日、皆さんの模擬議会のテーマで、こういったテーマがあったということで、偶然にちょっとびっくりしております。

その中で、青森県、やはり様々な形で魅力ある都道府県ですとか、例えば、観光にきたい青森県、何位なのか。殆ど最下位なんですね。もう、皆さん、多分御覧になったことかもしれませんけども、その中でこの幸福度というの、青森県、先ほど発表になられたとおりでございます。

その中で住みたい街にしていくというために、職場の充実をしていくということで、その中に様々な中で、特にベンチャー企業や起業家、生業を興すという起業家にこの青森県を売り込んでいくんだという発表がございました。そのとおりだなと思っております。

その中で具体的にどのような業種をターゲットにしているのか。そういったものがあれば教えていただきたいなというふうに思います。

### （回答）

御質問、ありがとうございます。

例えば、IT産業が良いと思います。

IT産業は、場所を選ばずに働くことができます。医療に関係する人と繋がりやすいというメリットと、災害による被害が少ないというメリットを生かし、ソフト開発や商品の製造のどちらも誘致すればいいと思います。どちらにも労働者は必要なので、職場を増やすことができる業種だと思います。

また、青森の魅力をPRするという面で、青森出身の起業家さんに青森の伝統工芸品や伝統的な食べ物を扱ったお店を出して欲しいです。

例えば、津軽塗や津軽ビードロ、こぎん刺しなどです。

青森には、素敵な伝統工芸品が沢山あるのに、それを扱ったお店が少ないと日常的に考えていました。

青森出身の起業家がそのようなお店を出すと、伝統工芸品の知名度の向上や伝統の継承になるので、青森の起業家には、青森ならではの商品を扱ったお店を出して欲しいです。

以上です。

(大崎議員)

ありがとうございました。

実際にこのITというのは、やはり地の利関係なくて、どこに居ても、最近は在宅で、ということもありますけども、そういったことのメリットを非常に共有できる業種だと思います。是非そういったところへターゲットにして提案をしていければいいなというふうに思います。参考にしたいと思います。

ありがとうございました。

もう1つの質問でありますけども、住みたい街の中で、先ほどの西目屋村の青森県の御紹介がございました。その中で、高齢者向けの対策、幸福度、福井の幸福度でも、働く場所と子育て支援ってあったんですけども、更に高齢者向けの対策というものが大事だということを皆さん発表していただきました。

その中で高齢者向けのサービスの提供が必要という提案でしたけども、具体的に皆さんが、見の回りで感じられている高齢者の方を御覧になった上で、いろいろなサービスがあると思うんですけども、どういったサービスが、行政がこれから行っていくべきだというふうに特に考えておられるのか、あれば教えていただきたいと思います。

(回答)

御質問ありがとうございます。

私は、普段、近くのスーパーに行くのですが、その時によく目にするのが、高齢者の方々が徒歩でスーパーに通っているというのを見かけるんですが、徒歩で行くことは健康に良いことなのでいいと思っていますが、その帰りに荷物を持って、買った物を持ってスーパーから出てくるのを見ると、結構重そうな物を持っていたりして歩いていらっしゃるんですね。

その時、そういうことで、私の祖母も買い物に行っているのを見てみたところ、やっぱり負担が、腕に負担がかかっているとされていたので、買った物をスーパーから自宅に届けてくれるサービスがあるべきであると思いました。

(大崎議員)

ありがとうございました。

なかなか、言われてみると当たり前で気付くようなことでも、日常生活の中に気付かないことって一杯あるんだなというふうに思います。

また、皆さんの視点で、更にそういった課題というものを見つけていただいて、我々にも教えていただいて、私たちも行政に働きかけていきたいなというふうに思っております。

最後ですけども、丁度私も議会での一般質問の機会をいただくんですけども、その際に、課題として、やはり挙げていこうと思った時に、先ほどの魅力度ランキングというものを参考に、皆さんと同じようにしておりました。

その中で、やはりどのものを見ても、例えば、住みたい街、幸福度ランキング、観光で行きたいところ、食事の美味しい都道府県様々あるんですけど、なかなか上位に入り込めないんですね。ただ、最下位にばかりある中で、下の方にある中で、その中でも地元愛、自分の住んでいる街を自慢できる都道府県という中では、まだまだ上位ではないんですけども、それら45番目、46番目に比べると、30番台上位に入っている。ここに、私は活路があるなというふうに個人的に思っています。今日の皆さんの御提案で、更にそれが間違いない、そうだ、というふうに確信をいたしました。

そういった意味で、まずは自分たちの街を愛する、好きでなければ様々なことができないという

意味で、皆さんと私も今日ここでその想いを共有して、今、青森県は選ばれる青森県に挑戦をしております。

どうか皆さんも一緒になって、これから選ばれる青森県の実現のために一緒に頑張ってくださいよう。

以上です。終わります。

(鶴賀谷議員)

鶴賀谷でございます。

私の持ち時間が大崎議員に使われたので、手短に進めて参りますので、よろしくお願ひします。

先ほど、お話が出ました幸福度ランキング46位と。青森県の各統計を取りますと、例えば、死亡率が全国下から数えた方が早いとか、いろいろな数字が出ますけども、私は個人的には、それを前向きに捉えています。

その状況を皆が意識すると、必ずその順位は必ず上がってくるという。ですから、多くの方々に意識をして欲しいと、このことを皆さんの方にお話しながら、今日を歩んでおります。

そうしてまた、私は、弘前の選出の県議会議員ですので、先ほど、西目屋村のお話がありました。素晴らしいですね。凄、捉え方が。関村長とも、私、お友達なものですから、高齢者向けの政策は、必ず私伝えますので、村長の方に。そのことは、皆様方にお約束いたします。

そして、また、不便が多いというお話もありましたね。住んでいていいよりも、不便の方が青森県は多いと。

よく、これ思うんですけども、幸せなこと、自分が幸せだと思ふことを数えてくださいというのと、不幸せなことを数えてくださいというのと、大体、マイナスの方が多いんですよ、人というのは。

ですから、不便を挙げるのはいいんです。それを何とかしようというの、その発想も素晴らしいんですね、やっぱり。

質問に入ります。

青森県もこれまで官民あげて様々な青森県をPRするためにイベントだとかキャンペーン、特にうちの方の知事は、冬でもりんごのアロハシャツを着たり、いろんところで青森県をPRしているという形で動いております。

そういった中において、今、皆様方から、様々ないろんな提案がございましたけども、皆様がこれからしたいという今回の提案の中でポイント、これはやりたいんだという何かポイントがあれば教えていただきたいなと、このように思っております。

(回答)

御質問と御感想、ありがとうございました。

私たちが一番お勧めしたいのは、SNSを使ったPRです。

SNSや学生のポスター作成などは、若者の目に入る宣伝ができることが特徴だと思っています。現代の学生をはじめとした若者は、イベントやキャンペーンがあること自体、あまり知らないのではないのでしょうか。SNSは勿論、学生が自分でポスターを作ることで、必然的にイベント情報を知ることになり、興味を引くことができると思います。

また、SNSでのキャンペーンの利点としては、若者の目に多く入ること、誰でも簡単に無料で参加できるという点があります。

このような点から、若者県外流出を防ぎつつ、県外へのPRも広く行えることが強みだと思っています。

以上です。

(鶴賀谷議員)

ありがとうございました。

すみません、私自身もツイッターとかSNSやっていないので、今日を機にやっていきたいと思  
いますので、そういった面においては、貴重な機会をいただきましたことを心から感謝申し上げて  
終了させていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。